

「赦してやりなさい」

2015年10月19日

ルカによる福音書 17章 1節～6節。イエスは弟子たちに言われた。「つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者は不幸である。そのような者は、これらの小さい者の一人をつまずかせるよりも、首にひき臼を懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がましである。あなたがたも気をつけなさい。もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」

使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。」

主イエスは弟子たちに「つまずきは避けられない。だが、それをもたらす者は不幸である。そのような者は、これらの小さい者の一人をつまずかせるよりも、首にひき臼を懸けられて、海に投げ込まれてしまう方がましである。あなたがたも気をつけなさい」と言われた。これらの言葉は、ルカ福音書が書かれた時代の教会員に対する警告でもあった。教会の中でも、牧師が教会員をつまずかせ、教会員同士がつまずかせ合うことが起こってくる。生きようとしている人をつまずかせ、妨害する者は不幸である。殊に、貧しい人、病人、障がい者、子どもなど小さい者をつまずかせる者は、首にひき臼を懸けられて、海に投げ込まれた方がましである。ひき臼は手で回すものや家畜で回すものなど、大小多種ある。犯罪人にひき臼を懸けて海に沈める刑罰もあったと言われる。小さい者をつまずかせる者はそのように重い犯罪と見なされると例えている。「あなたがたも気をつけなさい」と嚴重注意をしている。

そして、もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさいと勧めている。他人の過ちを忠告することは勇気がいる。その勇気は愛から生まれる。忠告を聞いて、悔い改めたならば、赦してやりなさい。一日に七回、罪を犯し、七回「悔い改めます」と言ったなら、赦してやりなさい。イスラエルでは、七は完全数で、限りない数を表す。数限りなく罪を犯しても、悔い改めるならば、広い心で赦しなさい。人は、与えた罪は忘れるが、受けた罪は忘れられず、赦せないものである。主イエスは無限に赦しなさいと勧めている。

これを聞いた弟子たちは、赦せないことを知っているのだから、赦せるとしたら信仰に立つことだと思ったのであろう、「わたしどもの信仰を増してください」とお願いした。主イエスは「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう」と答えている。「からし種一粒ほどの信仰があれば」に続いて「この山に向かって『ここからあそこに移れ』と命じても、その通りになる」という言葉が慣用的表現で、大きな働きに対する褒め言葉であった。

ルカ福音書の著者は次のように、言い変えている。あなた方がからし種一粒ほどの信仰を持っているなら、桑の木（つまずきをもたらす問題の人）に「抜け出して海に根を下ろせ」と言いなさい。桑の木は神の愛と赦しを受け、海の中でも根を下ろし、生きることができる。赦しは居場所、生き方を変えて、生きていく場と道を与えるということである。主イエスの十字架と復活の赦しは、過去とは違った新しい生き方へと生まれ変わらせてくださる福音なのである。